

生徒の学ぶ意欲を高めるため、学期ごとに授業方法を刷新。

授業のたびにプロジェクターを小脇に抱えて教室へ向かう三島菜央先生。板書に時間をかけず、生徒を楽しませ、集中させる授業づくりに情熱を注ぐ。

教師になって3年めの三島先生。担当する英語の授業は、生徒の顔を見て進めたいと考えて板書は行わず、必要なことはプロジェクターで説明。「生徒を飽きさせない授業を行う」をモットーに重点項目、授業のやり方も学期ごとに刷新する。「教師が授業の工夫をしていると伝われば、生徒の学ぶ意欲も高まる」と考えてのことだ。

「例えば、1学期は正しい『発音』の習得に力を入れたのですが、4人グループに分かれて時間制限を設け、一つのセンテンスを回し読みするなど、ゲーム感覚で学べるよう工夫しました。2学期は『文の構成』に重点を置く予定で、生徒がプレゼンを行うスタイルを取り入れ、彼らの記憶に深く残るような仕掛けを考えています」

もちろん、英語を学ぶ意義、意味もしっかり伝えるよう心がけている。

「発音に関しても、ネイティブに伝えるために大事なことから、私の留学経験を交えて具体的に説明しました。困っている外国人がいたら、すぐに「ハロー」と声をかけられる…。それこそが本当の意味で英語が話せるということ。そのために必要なのは

他国の文化を理解する心。それを英語の授業で学んでほしいと話しています」

意欲的に何かに取り組める人間を育てたい

今年度から1学年の総合学習も担当している。「夢を公言でき、意欲的に何かに取り組める人間を育てたい」と自ら希望した。「決められたプログラムを進めるだけでなく、自身の夢も語ります。こちらが本気で話せば、生徒はちゃんと受けとめてくれる。案外、今の子は大人の熱い言葉が好きですよ」

実は三島先生は高校時代、校風が合わず、「このままでいいのか。なぜ私はここにいるのか」と悩み苦しんだ末、中退している。「高卒認定を取って、現役で関西外大へ。あの経験があるから、懸命に頑張ることの尊さも身をもって生徒に伝えられます」。

小柄な体に驚異的なパワーを秘めている。「私自身がキラキラしていることを心がけています。先生が暗い雰囲気では生徒もしんどいから。教師はエンターテイナーであれ。三島先生はその思いを実践する。

イケてる
センセー!!
vol.13



取材・文/いのうえりえ

大阪府・府立河南高校
三島菜央先生 (27歳)

1987年京都府生まれ。京都の私立高校を中退後、高卒認定を取得し、関西外国語大学外国語学部英米語学科へ。在学中、米アイオワ州へ留学。卒業後、ベンチャー企業で企画営業を経験。2012年4月より大阪府立布施工科高校で講師を務め、その間に大阪府の教員採用試験を受けて合格し、13年4月より現職。教科は英語と総合的な学習の時間。1学年の担任。



プロジェクターは教室に設置されていないため、自分で運ぶ。「そんな私を見兼ねて校長先生が予算獲得に動いてくれました。希望はかないませんが、見てくれている人がいることがうれしかった」

fan message



授業力のある先生です。準備にすごく時間をかけています。その熱意は生徒にも伝わっています。実際、50分間一人も寝る生徒はいないですし、「実力が身についた」「興味関心が高まった」と評価も高いです。他の先生方にもいい刺激になっています。(河南高校校長 松田敏明先生)